

2019年11月11日（月）15時30～17時50分

**プラチナ社会研究会 2019年度 第2回 総会・セミナー****Society 5.0: 新インフラが未来を創る—まちづくり・公共サービスとデジタル化、国内外の最新事例から**

講演／報告／2019年度新規分科会の提案

**Point**

- 三菱総研の自主研究に基づく「インターストラクチャー」概念と、「新インフラ」の多面的活用をテーマに開催。
- AIとビッグデータを活用したまちづくりを専門とする2氏からご講演いただき、現状と今後の可能性を考察。
- 新インフラのあり方を示唆する米国・欧州・中国など海外最新事例を報告し、Society5.0の将来を検討。

11月11日、2019年度第2回総会・セミナーが開催されました。前半はこの分野のトップランナーお二人による講演を2題、後半は海外事例調査を中心にした報告を行い、最後には新たに設置される分科会／イベントの紹介がありました。

**▼講演 吉村有司様「建築・まちづくりにおけるAI・ビッグデータの可能性」／浦嶋将年様「デジタルスマートシティの構築に向けて」**

前半の講演では、東京大学先端科学技術研究センター准教授の吉村有司様、COCN（産業競争力懇談会）の実行委員を務める鹿島建設の浦嶋将年様のお二人から、それぞれ取り組まれている最先端技術とまちづくりの事例についてお話いただきました。

吉村様は、建築とまちづくりを専門としており、最先端のテクノロジーが、まちづくりに与えるインパクトの研究を続けています。この日の講演では、直近で取り組んでいる都市のヒューマンスケールでの緑視率の解析とその利用法、バルセロナで始まっている歩行者中心のまちづくりの事例「スーパーブロックプロジェクト」の詳細を紹介しました。

浦嶋様は、COCNが政策提言として取りまとめているデジタルスマートシティについて、報告書をベースにお話いただきました。COCNでは、日本のデジタルスマートシティ構築が「世界から1周遅れている」という危機感から2018年から取り組みを始めており、多くの課題や障害がある中で、「リファレンスアーキテクチャモデル」の設定と活用が重要であること、産官学連携が必須であり、2025年の大阪万博がその良いテストケース



第2回総会・セミナー開催

となるであろうことなどが語られました。

**▼報告**

後半は弊社研究員が「新インフラ論」をテーマに3題の報告を行いました。冒頭、主席研究員の長谷川専がインフラストラクチャーの概念を再定義し、Society5.0の実現のために、インフラのレイヤーの中でも「インターストラクチャー」にクローズアップする必要があると訴えました。このほか、「米国におけるドローン・空飛ぶクルマの教育と研究開発の最新事情」は、次世代インフラ事業本部のサーヴェドラ・ネアントロ、「欧州事例から見える持続可能なまちづくりのアイデア」は、地域創生事業本部の岡澤由季が報告しました。

**▼新規分科会提案**

最後に新たに設置される分科会の紹介があり、「地震による減災を共に考える分科会」「継承可能都市研究分科会」「『子育ての未来×情報技術』検討会」の3つの分科会／イベントの提案者が登壇し、参加を呼びかけました。